

第5回釧路都心部まちづくり推進協議会（準備会）

議事要旨

■日時：令和元年11月6日（水）14:00～15:50

■場所：釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

■出席者：末頁のとおり

■議 事

- (1) 第4回協議会（準備会）の主な意見と対応方針、議事概要
- (2) 事業構想編策定に向けた検討項目及び個別検討テーマについて
- (3) 公民連携PJ推進チームの活動について
- (4) 都心部地区交通戦略の策定について
- (5) その他

■議事要旨

- (2) 事業構想編策定に向けた検討項目及び個別検討テーマについて

○3拠点を軸としたまちづくりを支える交通ネットワーク・都市基盤の検討について

松井委員（有識者）

- 姫路の事例が掲載されているが、ここで大事なポイントは、この空間ができるまでに、内環状、内内環状をつくったということ。環状道路で駅周りを守ってあげないと、車も人も混ざり合ってしまう結局使い勝手も悪くなってまう。そういうことを踏まえて、この駅周辺整備の計画が立てられ、歩行者、公共交通が一番スムーズに移動できる空間づくりが可能となった。一方で、一般車もきちんとアクセスできる車寄せがその周りに整備されている。一般車の動線は一番内側の環状ではなく、その外側の環状からアクセスする形として駅前に入れさせない工夫をしている。その他は、その土地その土地の風土や自動車の使い方があるので、そういったところを反映しながら現実的などころに落とし込むことが良いと考えられる。

高見委員（有識者）

- 旭跨線橋の平面化に合わせて幹線道路の再編を行い、旭橋通を通して駅前に流入する通過交通を北側に逃がすのは良案だと思う。ただし、この場合には、鉄道近くで五差又が生じるので、この実現性についてしっかりと検証する必要がある。また、沿道には建物が張り付いており、影響する建物もあると思うので、市として気合を入れてやる必要があるが、ぜひ検討を進めていただきたいと思っている。

高野座長

- 駅周辺をトランジットモールのするということに対して、皆さんが満足するかどうか、また、商業施設の張り付きがうまくいくのかどうかという点も市民の交通行動の特性を踏まえながら検証していく必要がある。

市原委員（都市整備部）

- 市民の特性としては、100m先のコンビニまで車で行くという習性があるため、公共交通の利用を啓発してもなかなか難しいところがある。そのため、そこに行きたいという施設がどれだけ張り付くかによる部分が大きい。そこを含めて、市の公共交通施策と連携して、駅周辺に市民のニーズに対応した目的地をどうつくるかということが重要であると認識している。

- もう一点、駅前には貨物用トラックがものすごく通る。そのため松井委員がおっしゃるように環状道路をどう整備するかが重要である。旭橋通に流入する東西の通過交通は港へ目指すトラックが多い。複雑になっている旭跨線橋の交差点をいかにスムーズな交差点にできるかということが、物流系の交通処理も含めて、都心部の交通ネットワークの要になると考えている。

高見委員（有識者）

- トランジットモールにしても、幹線道路の再編にしても一足飛びにこのネットワークの将来像の通りにはいかない。市民との合意形成も難しい面が今後でてくるという前提でこの話は聞いているので、段階的に進めていく道筋が描けるとよい。

松井委員（有識者）

- 新しく計画をつくるときは、まずはこうなったら良いねというのから現実にと落ちていかないといけない。今できることだけを計画に落とし込んでも大したものではない。鉄道の高架化という大きなインパクトがある構想なので、それに合わせてこうまちを変えていこうというビジョンが必要であり、ビジョンの実現化方策を検討するその時々課題が見えてくる。例えば、商業施設の張り付きで言えば、商業施設側は物流ルートが直近に確保されているかという観点から考える。例えば、物流のバックヤードを商業施設の活動域に持ってきて、そのゾーンの中で時間帯を区切って、物流、公共と歩行者の交通をタイムシェアする。通常時間帯は公共交通と歩行者が中心、物流はそれ以外の時間になったら使えるようにする。こうやって少しずつビジョンに近づけていくことができれば良い。
- 道路ネットワークについても、大胆に幹線道路をつくることをスタートラインにして徐々に現実的なもの落とし込む。時間はかかるがその方が近道ではないかと思う。まちが出来上がる頃は高齢化も進んで車の使い方も変わってくる。そういうことも含めて人中心に考えていくのが良い。

高見委員（有識者）

- 幹線道路の再編には副作用もある。旭川では、通過交通が減るということに対して、商業者からは大きな不満が出た。やはりまちなかで大きな変化を起こすことは何かしらの副作用が生じる。釧路ではあまり問題はないのではない気もするが、やはり幹線道路の再編は大事なので、現場に配慮しながら地道に進める必要がある。

岡本委員（総合政策部）

- 公共交通の利用促進施策として、70歳以上の高齢者が100円でバスに乗車できる「おでかけパスポート」を実施している。これと同時に、バス路線を幹線系と支線系に分けて、都心部を中心として西部の3拠点（都市機能誘導区域）を幹線系で結ぶ公共交通の再編を進めている。最終的には、幹線系を東部の市立病院まで結ぶ計画となっている。公共交通、歩行者中心の再整備を進めていく釧路駅周辺整備との親和性は高く、相乗効果が生まれると考えている。
- 中央図書館が今年度の「コンパクトなまちづくり大賞」を受賞した。図書館を活用して、都心部に人の流れをつくる取組を進めたことが評価された。今、多くの若い方が利用していて、都心部にそういう層の人達が来てくれるようになった。姫路の事例のように、釧路駅と北大通の空間的なつながりや、幣舞橋の花時計までの視覚的な連続性などが生まれれば、更に人の流れが変わるのでそういった駅周辺整備を期待している。

○ゲートウェイ周辺の市街地パターン検討について

高野座長

- バスの交通結節点については、市街地パターンB案だけが南側で、あとは全部北側に集約すると案となっている。これについては先ほどバス乗降者数が1900人/日という数字があったように、バスの利用者、特に高校生の利用も含めて、どちらに集約するのがよいか検証が必要である。
- 南側に目的地が集積しているので南側がよいという考え方、北側にも人が集まる機能を持つてくるという意味で北側がよいという考え方もあるだろう。

高見委員（有識者）

- C案、D案は支障物件も多く捨て案のようになっているため、基本的にはこの両案はこれ以上考えなくてよいと考えている。今後、考えていくべきこととしては、歩行者系の広場が曲者だと思っている。冬が長い釧路の気候条件のなかで、この広場を駅とまちの関係とのなかでどうつくり込んでいくかということが重要だと考えている。

高野座長

- A案、B案を軸にして、今、お話にあった広場のつくりこみ方だとか、その他色々な設えづくりというのを次のステップとして考えていくということをお願いしたい。
- また、A案、B案では北側のスーパーが支障になっているが、現状をみるとお客さんも集まっているので、そこは駅の近くにあった方が都市機能の配置計画としてはよいだろう。区画整理事業のなかで再配置を検討するという事も考えられる。

第5回釧路都心部まちづくり推進協議会（準備会）
出席者名簿

令和元年11月6日（水） 14:00～15:50

場所：釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

	団体名・所属部署名		役職	氏名	備考
委員	有識者	北海道大学 公共政策学連携研究部	教授	高野 伸栄	(座長)
		日本測地設計(株)	副社長	松井 直人	
		法政大学デザイン工学部 都市デザイン工学科	教授	高見 公雄	
	釧路市	総合政策部	部長	岡本 満幸	
		産業振興部商業労政課	中心市街地 活性化主幹	戸部 貴一	(代理出席)
		産業振興部	観光振興監	菅野 隆博	(代理出席)
		都市整備部	部長	市原 義久	
オブザーバー	北海道開発局	事業振興部都市住宅課	課長補佐	齋藤 昭夫	(代理出席)
	北海道開発局 釧路開発建設部	道路計画課	道路計画課長	小林 孝士	
	北海道建設部 まちづくり局	都市環境課街路グループ	主査	深谷 弘明	
		都市環境課まちづくり推進グループ	主査	清水 洋一	
	北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部	事業室道路課	主査	梶浦 敏	(代理出席)
	北海道旅客鉄道(株)	総合企画本部地域計画部	主幹	吉野 哲也	
事務局	釧路市	総合政策部	都心部まちづくり 担当部長	米山 晋司	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	室長	吉岡 亨	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	専門員	山田 智史	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	主査	吉田 良平	
	公益社団法人 日本交通計画協会				